



炬火を掲げていざ謳う 閉校特別号

我らの泉鳥取

2025年3月14日（金）

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>



49年間 あいがとうございました

第47回卒業式・閉校記念式典(@サラダホール)

去る2025(令和7)年3月4日(火)、阪南市立文化センターサラダホールにて、泉鳥取高校最後の卒業式と閉校記念式典が開催されました。卒業生・保護者、ご来賓、同窓生、旧職員、一般客など合わせて400人の参加をいただき、有終の美を飾ることができました。

第47回卒業式



準備とセキュリティの関係でサラダホールで開催、実施に当たっては、阪南市の全面的サポートをいただきました。令和6年度、87名でスタートした47期生は、生徒たちや教職員の頑張りで、一人もかけることなく87名で卒業式を迎えられました。

橋本敏和校長は式辞で「あなたたちの入学式で『どんなときにも前向きで、負けない、最後まであきらめない心が『イストリ魂』それを学んでほしい』、とお願いましたが、それを見事に体現し、『イストリ魂』最後の継承者となってく

ま

た」と述べました。
在校生がいない中、送辞の代わりに新明学年主任より「贈る言葉」が述べられ、答辞は異例の3人読みでした。それぞれのあいさつについては、いずれもメモリアルページに掲載します。



閉校記念式典

15分の休憩の後、(株)ロックハーツ様のご協力で作成した泉鳥取高校のメモリアル動画を視聴後、閉校記念式典が始まりました。

校長式辞の後、大阪府教育委員会を代表して大久保宣明教育監よりご挨拶がありました。「この三月末をもちまして、その歴史に一区切りをつけることになりましたが、これまで取り組んでこられた『地域に根差した教育を通じて、社会で活躍

できる生徒の育成』という実践は、りんくう翔南高校はもとより、大阪府の高等学校の中で受け継いでまいります」と力強く宣言されました。

同窓生の清田扶羽茄さん(44期、桃山学院教育大3期生)から「別れの言葉」が述べられました。清田さんは「みんなには後輩がいなくて、すごく寂しい高校生活だったと思います。その分先生との距離も近く、友達との関係も濃かったのではないのでしょうか。それらはこの泉鳥取高校へ来たから経験できたことです。これまでの日々に自信をもって、自分に正直に充実した人生が送れるように心から願っています」と後輩にエールを贈りました。

泉鳥取橋本校長からりんくう翔南
長岡校長へ校旗が手渡される



<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>